

自分からあいさつをする

「発言」(中日新聞)より

私は自分からあいさつすることを心がけている...

それまではあいさつされたら、そのときにかえせばいいやと思っていた。自分からあいさつしても無視する人がいて不快な気持ちになったことがあったからだ。でも、ある日をきっかけに私は変わった。帰宅途中の私に「お帰り」「お疲れ様」と言ってくれた人がいたのだ。それを聞いて私はすごくうれしくなった。言ってくれたのは、私が全く知らない人だった。

見ず知らずの人にあいさつができる人もいるんだ。私には驚きだった。こんな人みたいに自分もなれたらいいなと思った。それからは自然とあいさつが口から出るようになった。

登校時、自分から見ず知らずの人にあいさつをしたら「行ってらっしゃい」と笑顔で言ってもらえて。朝からすごく良い気分になれた。

内田 詩恩 (高校生：岐阜県関市) 16歳

おはよう握手

「くらしの作文」(中日新聞)より

「おはよう」。次々に起きてくる4人の孫たちに、手を差し出して握手をする。笑顔で力強く返してくれる日もあれば、寝起きの悪いときは指先でチョンと返すときもある。

以前から朝のあいさつを握手とともにしたいと思っていたが、孫たちの反抗期などで機会を逃していた。ある日の朝、受験に行く孫娘に「頑張っておいで」と握手をしたところ、緊張が解けたように、にっこりと出かけていったことがきっかけで始まった。アメリカ人と結婚した次女の家族や親族とは、全く抵抗がなくハグできるのに、なぜか簡単な握手が難しく、やっと実行にこぎ着けた。その日その日の握手の返し方で、家族の健康状態、とりわけ孫たちのご機嫌状態、心理状態まで分かるのがおもしろい。

家族間での握手に加え、会合の場所でも握手を始めてみた。戸惑いながら受けていた男性陣も、今や満面の笑みのおまけをつけて力強く握り返してくれ、その後の会合が和やかに充実したものになることを実感している。

簡単な握手で、たくさんの気付きや喜びが味わえることに感謝し、勇気を出して握手の輪をもっと広げよう。そして、たくさんの力強い握手を受けるため元気でいよう。

原田 さつき (無職：岐阜県土岐市) 74歳

あいさつの基本は、やはり相手の目を見て、笑顔で明るく声をかけることです。あいさつは、もともと仏教用語で「心をひらく」という意味があるそうです。自分から心をひらくことで、相手にも心をひらいてもらいたいという気持ちが込められているのです。自分からきちんと心に響くあいさつをしたいものですね。

